



平成27年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月31日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社
 コード番号 9049 URL <http://www.keifuku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長
 四半期報告書提出予定日 平成26年8月11日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 西田 寛
 (氏名) 長尾 拓昭

TEL 075-841-9385

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第1四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第1四半期	2,810	△6.4	154	△35.7	148	△38.3	83	△51.0
26年3月期第1四半期	3,003	4.6	239	46.6	240	67.3	170	20.5

(注) 包括利益 27年3月期第1四半期 104百万円 (△43.7%) 26年3月期第1四半期 185百万円 (31.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第1四半期	4.21	—
26年3月期第1四半期	8.59	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第1四半期	16,828	4,764	25.2	212.84
26年3月期	17,109	4,703	24.4	209.84

(参考) 自己資本 27年3月期第1四半期 4,235百万円 26年3月期 4,175百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	0.00	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,700	△2.7	290	△22.1	260	△27.4	100	△47.6	5.03
通期	11,400	△1.9	410	2.5	360	0.3	370	△5.0	18.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期1Q	20,000,000 株	26年3月期	2,000,000 株
② 期末自己株式数	27年3月期1Q	101,832 株	26年3月期	101,632 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期1Q	19,898,168 株	26年3月期1Q	19,899,714 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。
なお、業績予想については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策等の推進を背景に企業収益や個人消費に改善がみられるなど、景気は緩やかな回復基調にあります。その一方で平成26年4月の消費税率引上げ以降、駆け込み需要の反動や原材料価格上昇といった懸念材料などから先行きの不透明な状況のまま推移しました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、引き続き安全輸送の徹底とお客様目線に拠る営業活動の推進に努めるとともに、特に、嵐山線において、沿線のお客様、社寺や行政などのステークホルダーとの交流を深めるためのイベントを積極的に実施するなど、沿線の魅力や価値を高める取り組みを引き続き実施しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は2,810百万円（前年同期比192百万円、6.4%減）となり、営業利益は154百万円（前年同期比85百万円、35.7%減）となりました。これに営業外収益および営業外費用を加減した経常利益は148百万円（前年同期比92百万円、38.3%減）となり、法人税等を加減した四半期純利益は83百万円（前年同期比87百万円、51.0%減）と、ほぼ所期計画どおり推移しました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 運輸業

鉄軌道事業におきましては、嵐山線では、交通ICカードの全国相互利用開始による利便性が向上したことや円安による海外からのインバウンドの効果が続いたことで、多くのお客様にご利用いただきました。また、「嵐電一日フリーきっぷ」を始めとする各種企画乗車券のご利用も増加するなど、消費税率引上げに際し、200円均一運賃の据え置きによる減収懸念はあったものの、ご利用のお客様は順調に推移しました。

叡山ケーブル・ロープウェイでは、ゴールデンウィークを中心に天候に恵まれ堅調に推移しました。また、平成26年4月に「平安遷都千百年記念様」や「水力発電施設跡」などが点在する自然公園「八瀬 もみじの小径」を整備し、八瀬・比叡山地区の観光スポットとしてPRに努め、京阪電車・叡山電車・ガーデンミュージアム比叡との連携によるグループ全体での八瀬・比叡山地区の魅力向上に取り組みました。

バス事業におきましては、京都バス(株)では、平成26年3月より嵐山・嵯峨地区の均一運賃区間の拡大と京都市交通局との連携による「市バス・京都バス一日観光乗車券」の同社路線での共通利用の開始などの増収施策に取り組みました。京福バス(株)では、平成26年4月に一部路線の効率化の実施やコミュニティバスの経路・ダイヤ等を見直してお客様の利便性の向上を図ったほか、高速バスの東京線夜行便において、繁閑に応じた運賃設定と乗車券の早期購入割引（早割）を導入するなどの増収施策に取り組みました。

以上の結果、燃料価格の高騰による影響もあり、運輸業の営業収益は1,941百万円（前年同期比23百万円、1.2%減）となり、営業利益は59百万円（前年同期比38百万円、39.7%減）となりました。

② 不動産業

不動産分譲事業におきましては、(株)京福コミュニティサービスでは、あわら市内の分譲宅地「あわら二面分譲地」の販売を進め、完売に向け継続した営業活動を実施しました。

不動産賃貸事業におきましては、「嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア」は、平成25年7月の全面開業以降、スクエアと鉄道機能とのさらなる融合を図るため、駅ホームを利用したビアガーデン「RANDEN EKI-BEER2014」のほか、「嵐山エキナカ梅酒フェスタ」など集客力のあるイベントを開催することで、嵐山駅を訪れるお客様に楽しんでいただく機会を創出しました。また、JR福井駅の近隣や京福バス(株)坂井営業所構内に新たにコンビニエンスストアを誘致するなど、安定した収入の確保に取り組みました。

「BOAT RACE 三国」ではインターネット等による舟券購入機会を増やすための取り組みを実施する一方で、ボートレース場へお越しいただくため施設の利用環境を整備するとともに、女性観戦ツアーの催行等さまざまな誘致イベントを実施しました。

以上の結果、分譲宅地販売区画数が減少したことや、前年同期に「BOAT RACE 三国」自場で人気レースが開催されたことなどにより、不動産業の営業収益は519百万円（前年同期比176百万円、25.3%減）となり、営業利益は94百万円（前年同期比59百万円、38.5%減）となりました。

③ レジャー・サービス業

飲食業におきましては、各店舗それぞれの特色を活かし、地域特性に応じた営業活動を引き続き実施しております。「八幡家（やわたや）」では、平成26年3月より「ビュッフェポイントカード」を導入し、リピーター確保に努めました。「京都ぎをん八咫（やた）博多店」では、平成26年4月に同店入居ビルのリニューアル工事が実施されたこともあり、お客様のご来店機会が増加しました。

物販業におきましては、フラワーショップ「BOOM」では、昨年に引き続き母の日に「スパコ・JR京都伊勢丹」内に臨時売店を出店し、販売日数を増加させるなど積極的な営業活動に取り組みました。

越前松島水族館におきましては、平成26年3月にオープンした「ペンギんらんど」を中心に、展示方法の工夫など当館ならではの楽しみ方を提供するとともに、開園55周年を迎えた記念イベントを実施するなど、多くのお客様にお楽しみいただきました。また、三国観光ホテルにおきましては、お客様の視点に立ったサービスと当館独自の宿泊プランを提供するなど、「選ばれるホテル」づくりに向けた諸施策を実施しました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は505百万円（前年同期比8百万円、1.6%増）となり、売上原価ほか諸経費の減少もあり、営業損失は0百万円（前年同期比12百万円、95.6%改善）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は、受取手形及び売掛金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ280百万円減少し、16,828百万円となりました。負債は、借入金の返済や社債の償還による減少などにより、前連結会計年度末に比べ342百万円減少し、12,063百万円となりました。純資産は、期末配当を実施した一方で、四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ61百万円増加し、4,764百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年4月30日の「平成26年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,438	1,417
受取手形及び売掛金	1,069	915
販売土地及び建物	21	21
商品及び製品	20	18
仕掛品	-	0
原材料及び貯蔵品	67	61
前払費用	36	29
繰延税金資産	100	90
その他	58	95
貸倒引当金	△16	△15
流動資産合計	2,798	2,636
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,599	8,574
機械装置及び運搬具(純額)	929	918
土地	2,878	2,878
リース資産(純額)	811	761
建設仮勘定	49	34
その他(純額)	365	342
有形固定資産合計	13,634	13,511
無形固定資産		
その他	95	88
無形固定資産合計	95	88
投資その他の資産		
投資有価証券	248	259
その他	320	319
投資その他の資産合計	568	579
固定資産合計	14,297	14,180
繰延資産		
社債発行費	13	12
繰延資産合計	13	12
資産合計	17,109	16,828

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	77	80
短期借入金	3,564	3,473
1年内償還予定の社債	331	331
リース債務	206	201
未払金	650	408
未払法人税等	120	19
未払消費税等	88	130
賞与引当金	235	89
その他	491	778
流動負債合計	5,767	5,515
固定負債		
社債	655	570
長期借入金	3,539	3,499
リース債務	625	583
長期未払金	665	675
繰延税金負債	443	467
役員退職慰労引当金	150	158
退職給付に係る負債	335	290
その他	223	302
固定負債合計	6,638	6,548
負債合計	12,406	12,063
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	270	270
利益剰余金	2,905	2,949
自己株式	△14	△14
株主資本合計	4,161	4,205
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	47	54
退職給付に係る調整累計額	△33	△25
その他の包括利益累計額合計	13	29
少数株主持分	527	529
純資産合計	4,703	4,764
負債純資産合計	17,109	16,828

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
営業収益	3,003	2,810
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	2,732	2,625
販売費及び一般管理費	31	30
営業費合計	2,763	2,656
営業利益	239	154
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	3	3
負ののれん償却額	11	1
雑収入	9	8
営業外収益合計	24	14
営業外費用		
支払利息	20	17
社債発行費償却	1	1
雑支出	0	0
営業外費用合計	23	19
経常利益	240	148
特別利益		
固定資産売却益	30	—
特別利益合計	30	—
税金等調整前四半期純利益	271	148
法人税、住民税及び事業税	34	32
法人税等調整額	56	29
法人税等合計	91	62
少数株主損益調整前四半期純利益	180	86
少数株主利益	9	2
四半期純利益	170	83

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	180	86
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	7
退職給付に係る調整額	—	10
その他の包括利益合計	4	17
四半期包括利益	185	104
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	175	99
少数株主に係る四半期包括利益	9	5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	1,958	625	418	3,003	—	3,003
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	6	69	78	154	(154)	—
計	1,965	695	497	3,158	(154)	3,003
セグメント利益又は損失(△)	98	153	△13	238	1	239

(注) 1 セグメント利益の調整額1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	1,937	448	425	2,810	—	2,810
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	4	71	80	155	(155)	—
計	1,941	519	505	2,966	(155)	2,810
セグメント利益又は損失(△)	59	94	△0	153	1	154

(注) 1 セグメント利益の調整額1百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。